2

次の(1)〜(5)の文章を読み，下記の設問に答えよ。 (25 点)

(1) 1181 年 7 月，鶴岡若宮の上棟式に当たって，源義経は，大工に褒美として与える馬を引く役を命じられた。この役回りは郎党の者が行うものであったため，義経はこれを辞退したが，兄源頼朝の怒りを買い，頼朝の命に従って畠山重忠らとともに馬を引くことになった。

(2) 1184 年 2 月，頼朝は朝廷への奏請の中で，平氏追討に義経を派遣することを言上したが，同時に，御家人たちの勲功については頼朝が調査の上で申請することが述べられていた。

(3) 1184 年 8 月，義経は，後白河法皇から検非違使・左衛門少尉に任ぜられたことに関して，「是れ所望の限に非ずと雖も，度々の勲功，黙止せられ難きに依り，自然の朝恩たるの由，仰せ下さるるの間，固辞する能(あた)わず」との書状を頼朝に送った。これに対する頼朝の反応は，「頗(すこぶ)る御気色に違う」ものであったと『吾妻鏡』は述べている。

(4) 1184 年 9 月，従五位下に叙せられ大夫判官の地位に就いた義経は，翌月には院内への昇殿を許され，華々しい拝賀の式が行われた。

(5) 1185 年 4 月，頼朝から，頼朝の推挙なしに任官した御家人 25 人に対して，本国に下向することを禁じ，もし命令に背いて尾張の墨俣川以東に下った場合は，本領を没収の上，斬罪に処する旨の下文が送られた。これには，任官した武士の名が 1 人 1 人挙げられていた上に，その悪口が書き連ねてあったが，その中には，義経の名は見えないものの，彼の従者である佐藤忠信が含まれていた。

設　問

源義経は，兄源頼朝の命で平氏追討の先頭に立ち，1185 年 3 月，壇の浦の戦いに勝利して，ついに平氏一門を滅亡させた。しかし，同年 5 月，壇の浦で捕えた平宗盛らを連行して自ら東国に下ったにもかかわらず，義経は鎌倉へ入ることを許されず，さらに同年 6 月には，与えられていた平家没官領をも取り上げられた。頼朝が，義経に対してこのような厳しい処分を下したのはなぜか。150 字以内で述べよ。